

令和4年度中学校及び義務教育学校後期課程で使用する教科用図書の
調査研究の観点について

1 教科用図書調査研究の観点

【第1の観点】基礎・基本の定着
【第2の観点】主体的に学習に取り組む工夫
【第3の観点】内容の構成・配列・分量
【第4の観点】内容の表現・表記
【第5の観点】言語活動の充実

【第1の観点】基礎・基本の定着

①	学習課題の示し方
②	我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫
③	国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫

【第2の観点】主体的に学習に取り組む工夫

①	単元の導入における工夫
②	課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫

【第3の観点】内容の構成・配列・分量

①	単元や資料等の配列・分量
②	主権者育成のための工夫

【第4の観点】内容の表現・表記

①	学習内容との適切な関連付けがなされた絵図・写真等の活用
②	掲載されている情報を精選し、視点を明確にする工夫

【第5の観点】言語活動の充実

①	目的に応じて適切に表現する力を育てるための工夫
---	-------------------------

2 調査研究報告書の記述にあたっての留意点

- (1) 全発行者の教科用図書について、観点1～5の観点で調査し、その特徴を一覧表にすること。
- (2) 具体的な事例をあげ、各教科用図書の特色を明確にするよう工夫すること。

- (3) 単に、一般的な感想や見解または優劣について述べることを避け、客観的に明らかとなったことから記述すること。
- (4) 府中市が力を入れて取り組んでいる、小中一貫教育9年間の視点及び地域に開かれた教育課程(地域課題等を踏まえた内容の示し方)については、観点3に記述すること。
- (5) 記載順は、発行者番号の順によること。